

実態調査

実際に東京・六本木にある毛利庭園に行った際に次のようなことが分かりました。

- ・ 細い道が木々の中にある。
- ・ 周りは住宅や建物が多く、和の雰囲気は無い。
- ・ 木々に囲まれたベンチやテラスがある。
- ・ 一部は植物に覆われて、周りの建物がほとんど見えなくなるところもある。
- ・ 庭園自体は小さい。



思考のプロセス

実態調査から自分は次のように考えました。

- ・ 植物や木々による外部環境との隔絶をする。
- ・ テラスやベンチがあるが周りに植物を用いて自然との調和をしている。
- ・ 小さいスペースでも和の雰囲気を感じられる。

そこから次の要素に着目しました。

- ・ 建造物と自然の調和をさせる。
 - ・ 雰囲気や心地よさを提供する。
- また、人の多いところや観光地を想定するため以下のことにも着目します。
- ・ 毛利庭園のように外部環境に影響を受けないようにする。

外部環境との隔絶と和の風情を作り出す技法「創造樹」で和を表現します。



木々で囲むことによって外部環境に囚われずに和の心地よさを作り出すことができます。



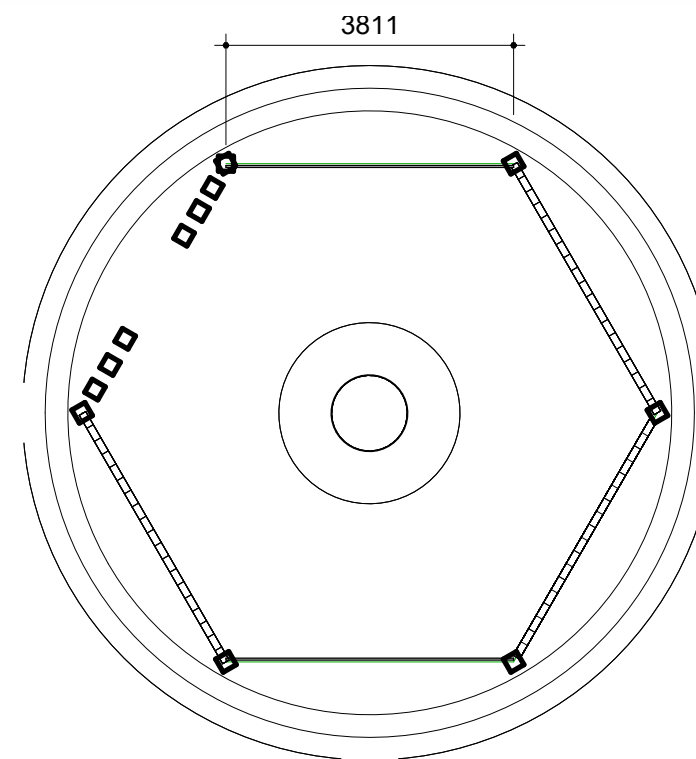
内部は天井をの代わりに木に覆われた空間になっており、自然と建築物を調和させた環境になっています。



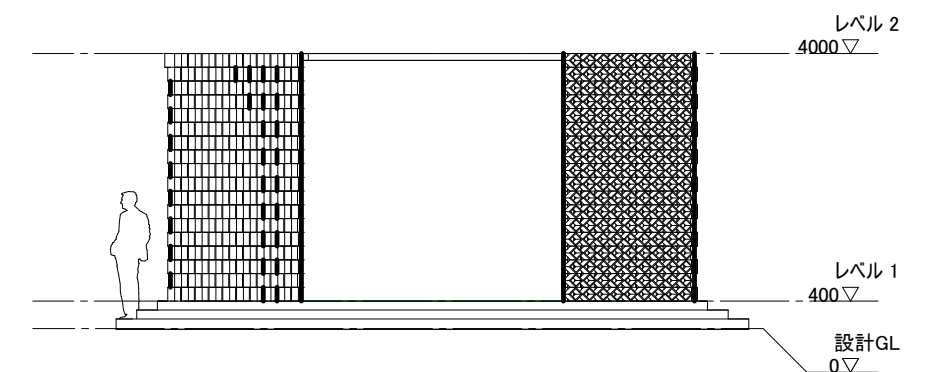
壁は格子状にしたり、ガラスを用いたりして建築物と周囲の自然との繋がりを創り、和の雰囲気を感じやすくします。



和の雰囲気に合うような木や雑貨を使用することによって利用者の体験する心地よさや和の表現を邪魔せず、促進できるようにします。



1/100 平面図



1/100 立面図